

志染地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和4年11月18日(金)
午後7時00分～午後8時20分
- 2 場 所 志染町公民館 大会議室
- 3 参加者 志染地区 17人
市 24人(市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、経営管理課長、生活環境課長、福祉課長、農業振興課長、道路河川課長、建築住宅課長、交通政策課長、教育施設課長)
オブザーバー 5人
傍聴者 6人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 中学校の跡地利活用について

【志染地区】

11月8日に開催した運営委員会で、市に事業計画を提出した。持続可能な運営をしていくため、運営委員会の開催を重ね、市へのお願いを減らしながら、地域で主体的に運営していくことを考えている。そこで、事業の許可がいつであるか。一般社団法人を設立し運営していく考えであるが、その設立の準備等があり、いつまでも待てない。志染中学校は志染町民にとって大切な施設なので、そこを活用し、志染を活性化したいと考えている。三木市内の小中学校の再配置等もある中、この志染中学校跡地の利活用がモデルケースになれるようにと考えている。兵庫県との調整も必要と考えるが、市から兵庫県へ強く働きかけ、その時期を早期にさせていただきたい。

【総合政策部長】

地域の皆様には、地域活性化のため、協力いただき感謝している。志染中学校の跡地活用については、早期に事業が実施できるよう考えている。しかし、兵庫県の開発審査会の許可が必要であり、これにどのくらい時間を要するかは分からない。当初、兵庫県に相談した時には、1年は必要と言われている。現時点で、その時期がいつになるかを提示することは難しい。地域の皆様と一緒に兵庫県に働きかけ、可能な限り早期に利活用を開始できるよう進めていきたい。

【志染地区】

農業の将来性について伺いたい。志染地区においても、跡継ぎのいない農家が多い。現在、営農組織などをお願いすると、お金がかかる。企業で例えると、赤字の会社に金融機関はお金を融資しない。農業を守る、人・農地プランの作成の促進と言う前に、いつまでも農業に税金を投入すべきかどうかを考えるべきではないのか。

【産業振興部長】

農業は、農産物を作るだけでなく、農地は国土保全、災害の緩衝地としての機能も有する。また、国の食料自給率、カロリーベースで約40%ほどである。国際情勢にもよるが、何らかの有事の際には、日本国内の食料を確保する必要があり、農業を守ることは必要であると考えている。現在の農業は、各個人で行い、まだまだ集約化、省力化、効率化が進んでいない。そこで、例えば農地の貸し借りについて、農地中間管理機構（農地バンク）を利用し、各個人が農地バンクに預けた農地を借りたい人が借りる制度もある。集約化などにより、本当に日本の農業を守れるかについては、まだまだ課題はあるが、市として出来る限りの支援をしていく。

イ 交通施策について

【志染地区】

回答の1日あたり0.63人や0.08人の算出根拠は。

【交通政策課長】

1日あたりの0.63人は、志染地区内の伽耶院から高男寺間の年間の乗降者数を、運行日数で除している。0.08人は、1

日に8便あるので、0.63人を8便で除している。

【志染地区】

窟屋付近の交通量が多くなってきている原因は何か。

【都市整備部長】

渋滞回避のため、御坂の交差点を回避するからだと考えている。ひょうご情報公園都市の次期開発等の検討の中で、兵庫県と協議し、可能な限り渋滞を解消するように検討していく。

【志染地区】

ひょうご情報公園都市の分譲が開始され、企業を誘致することになると、交通量の変化等は大きな問題と考える。分譲が開始されたら、御坂の交差点の交通量は更に多くなると考える。これを含め、志染地区の交通量をどのように考えておられるのか。

【都市整備部長】

現在、御坂の交差点の渋滞は、ひょうご情報公園都市に向かう車が増えたことによるものと考えている。対策としては、ひょうご情報公園都市を整備する際に、新たにアクセスする道路を設けて、ひょうご情報公園都市に向かう車をその道路へ誘導する。これにより、渋滞緩和へつなげていきたいと考えている。志染地区全体については、まずは今、事業化している（主）三木三田線志染バイパスの整備を促進していきたい。

【志染地区】

ハンブとバンプの件で、ハンブは、施工に舗装工事など、大がかりになるが、バンプはアンカーボルトを打ち込むものなので、安価に施工できるということで提案した。

【道路河川課長】

ご提案のあったハンブやバンプは、速度を抑制する物理的効果がある。イオンなど、商業施設の出入口によく使用されているのがバンプ、緩やかなカーブなど一般道路で使用されているのがハンブである。これら物理的施策を実施すると、高速の車両には、大きな負荷がかかり、あまり推奨されていない状況である。これらに代わる対応策としては、主に視覚効果を図ることや、速度抑制を促す路面標示を考えている。

ウ 敬老会開催補助金の見直しについて
質疑なし

エ 観光推進やゴルフ場での太陽光発電などで市の魅力アップ
について

【志染地区】

観光協会は神鉄三木駅に併設されているが、電車由来より、車で来る方が多いと考える。駅前の道路はカーブしていて、狭いため道端に一旦停止することもできず、素通りされてしまう。そこで、観光協会を訪れる人のための駐車場の場所の表示を、道からよく見える位置に設置していただきたい。そして、現在、駅と共同利用している駐車場は3台分確保されているが、増設する必要があると考える。また、近くに有料駐車場があるので、観光協会へ訪れた人には無料のサービス券を出すなどして、気軽に立ち寄れる観光協会にすることで、三木市のPRになると考える。

次に、ゴルフを核にした街の活性化を実現するため、ゴルファーの増加につながるイベントの実施や、小中学生がゴルフに親しむきっかけ作りを行っておられる。これに、現在、注目されている脱炭素社会の推進を、三木市がゴルフ場と協力し、脱炭素社会を目指しているということを全国にPRすれば、ゴルフを核とした街の活性化や観光の活性化に繋がると考える。

【産業振興部長】

観光協会からの観光案内を、ホームページで案内するなど、積極的にネット上でも発信しているため、三木駅舎や観光協会利用者のための駐車スペースは、現時点では平日、土日であっても満車で困るという状況になっていない。今後、市外県外からの観光客の増加により、駐車スペースの不足状態が続くような場合には、ご意見いただいた有料駐車場の借上げなど、検討していく。また、現在の駐車スペースの表示について、不十分であるようでしたら、直ちに何らかの対策を講じる。

次にゴルフ振興について、ジュニアゴルファーの育成ということで、子どもたちへのきっかけ作りとして、スナッグゴ

ルフの体験をしていただいている。先日、日本ゴルフツアー機構の青木功会長が市役所を訪問され、中学校、特別支援学校向けのスナッグゴルフセットを8セットいただいた。これにより、これまで小学生向けの取り組みであったが、中学生、特別支援学校の児童生徒へ対象を広げ、体験していただく取り組みに力を入れていきたいと考えている。また、脱炭素社会の推進について、市としても、二酸化炭素の削減や再生エネルギーの確保など脱炭素化は推奨している。ゴルフ場へのソーラーパネルの設置については、各ゴルフ場の判断となるが、設置等の計画をしていただきたいと考えている。

【志染地区】

ゴルフのまち三木と掲げた目的とそのための各種施策に対する評価基準を教えてください。

【市長】

ゴルフのまち三木と掲げているのは、金物、酒米の山田錦そしてゴルフを地域資源と考えているからである。ゴルフは一部では娯楽だという人、スポーツと言う人もいるが、三木市には25箇所のゴルフ場があり、働き口となり、集客も見込める。また、市にはゴルフ場の固定資産税、ゴルフ場利用税、合わせて約10億円の収入がある。そういったことから、一つの産業として捉えている。さらに、三木市において、中学生、高校生の全国ゴルフ選手権を開催している。全国の予選を勝ち抜いた中高生やその保護者等が三木市へ訪れ、宿泊についても三木市内が中心となっている。今年度、スナッグゴルフの小学生の全国大会も開催し、小中高合わせて、ジュニアゴルファーの聖地となっている。これらにより、知名度向上によるPR効果や経済効果があると考えている。

【産業振興部長】

評価基準はなかなか難しい問題と考えるが、市内ゴルフ場には約100万人以上の方が来場している。ゴルフ場の感覚では約7~8割が市外県外からだと聞いている。ゴルフをした後、帰り道に山田錦の館で特産品を買っていただいたり、近くの商店でアフターゴルフを楽しむなど、一定の経済効果につながると考えている。また、三木市の知名度の向上のため、ジュニアゴルファーの聖地を目指し、ゴルフの全国大会を継

続的に開催していく。これによる PR 効果はなかなか測りにくいものではあるが、現在、ゴルフの関係団体の間では、兵庫県三木市はゴルフ振興に力を入れているということが浸透しつつあることを実感している。

オ 雑草・雑木・雑竹除去による市の美化について
質疑なし